

令和 2 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト (県 立 鴻 巣 女 子 高 等 学 校)

| | |
|--------|------------------------------|
| 目指す学校像 | (1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成 |
|--------|------------------------------|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 学習環境の整備と事前学習等の授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 外部機関と連携しきめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な自己実現を支援する。 3 多彩な学校行事や規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切にしている指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。 |
|------|--|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|---|
| 出席者 | 学校関係者 | 名 |
| | 生徒 | 名 |
| | 事務局(教職員) | 名 |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | | |
|-------------|--|---|--|---|---------------------|-----|-------------|
| 年 度 目 標 | | | | | 年 度 評 価 (月 日 現 在) | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | (現状) 学習環境づくりの指針、「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」が徹底して、大半の生徒は落ちついて学習活動を行っている。また、家庭学習時間が増加傾向にあり、自ら学ぼうとする姿勢が向上している。 (課題) 各生徒に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力向上に資する学習指導の改善を行うとともに、支援を必要とする多様な生徒への対応とICT活用等、学びの質を高める方策を拡充する必要がある。 | 生徒一人一人に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させる。 | ①学科毎に年間学習計画を説明する。(学年) 授業毎の年間学習計画を説明し各自の目標を明確にする。(授業担当) ②学期毎に振り返りを行い各自でまとめさせる。(授業担当) ③授業外の学習(課題・予習・復習)を具体的に指示して提出させる。(授業担当) ④授業評価アンケートを行い、年度内授業改善に活かす。(授業担当) ⑤各種研修会や授業公開週間等で教員間の学び合いを充実する。(複数回実施) | ①③学習意欲と学力向上の意識高めた生徒の割合(前年度比1割増) ②家庭学習時間の状況(前年度比較) ④研修会等の実施状況と成果 | | | |
| 2 | (現状) 自立した女性の育成を目指し、外部機関と連携しながら、本校の生徒現状に沿った体系的な進路指導により一定の成果を得ている。 (課題) 一人一人の進路実現に向け、生徒個々の状況把握と適切なアドバイスが必要である。また、保護者に対する情報発信と進路行事への参加機会の充実等、家庭連携の深化も課題である。 | 生徒一人一人が自己理解を進めるとともに、将来に向かって積極的に考えるように、進路指導やキャリア教育を拡充する。 | ①基礎力診断テストの結果を活用して、生徒実態を把握する。(進路部・学年) ②進路の手引きを定期的に使用して、進路行事・キャリア教育の振り返りを行う。(学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談を実施して個々の進路希望状況と相談を行う。(担任) ④講演会や相談会など、保護者への進路関連行事を実施する。(進路部) | ①テスト結果の分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増) ④進路未決定者の割合(前年度比較) ⑤保護者の進路行事参加状況と成果 | | | |
| 3 | (現状) 学校行事に積極的に参加する生徒が年々増加しており、多くの生徒が主体的に参画する姿勢が伺える。また、基本的な生活習慣の確立や自己管理能力の向上させる取組により、生徒の自己肯定感を高める指導を行っている。 (課題) 生徒自身の将来像を考え、卒業後、1年後、3か月後等、様々なスパンで学校生活を意識させる取組が必要であり、生徒個々の状況に応じた、相談や支援体制を活用し、個別の対応計画と支援実施を全ての職員で行っていく仕組みを構築する必要がある。 | 生徒の自己管理能力の育成、各種の個別支援体制を改善する。 | ①生徒手帳の使用法を説明して自己のスケジュール管理を徹底させる。(クラス担任) ②学校生活を中心に自己管理ができているか、生徒手帳の記入を確認する。(クラス担任) ③各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する。(生徒指導部、在り方生き方に係る教育推進委員会) ④荷物ダイエット等、日常的に整理・整頓できるように粘り強い指導を行う。(学年) ⑤不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えて実施する。(体制の整備・強化) | ①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ④自己管理の意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増) ⑤個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(前年度比1割増) | | | |
| 4 | (現状) 地域等の催し物・イベント参加依頼が増加し、交流事業は年々変化・充実して開かれた学校づくりを推進している。また、文化祭・体育祭等の学校行事も来場者が増加している。 (課題) 地域イベントの実施時期や参加時間等、調整事項が多分にあるが、生徒の社会貢献意識は高い。学業優先を第一としながら、外部との連携を深め、WIN・WINの関係づくりに学校全体で取り組むことが課題である。 | 生徒の活躍の場を拡げ、自己肯定感や自己有用感を高める。 | ①多くの生徒が地域交流や学校行事に参画できるように丁寧に粘り強く指導・支援する。(通年:特別活動部、教科担当) ②各種の体験活動、県の事業活動の内容改善を図る。(教科担当) ③新規のイベント、ボランティア要請に対応、適切に参加できるように支援する(担当) | ①③地域交流等の実施状況と成果 ④学校行事に積極的に参加する生徒の割合(前年度比1割増) ⑤体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果(前年度比1割増) | | | |

| 学 校 関 係 者 評 価 | | |
|-------------------|---|-----|
| 実施日 | 年 | 月 日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

